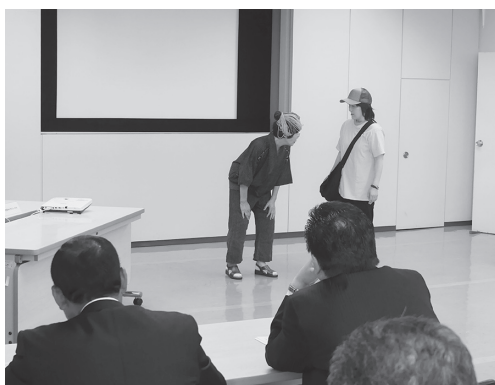


認知症サポーター養成講座を受講



認知症の理解を深めます



財布をなくした
おばあさんの事例を寸劇で再現

6月3日、議員らは市役所で行われた認知症サポーター養成講座に参加。これは、認知症に対する正しい知識と理解を深め、地域で認知症の人やその家族に対して、できる範囲の手助けをする**認知症サポーター**を養成するもの。市キャラバンメイト「ロバの会」の6人が講師を務めた。

まず初めに、認知症の種類や症状などを説明したほか、財布をなくした高齢者が身近な人を疑うなどの事例を寸劇で再現。認知症の人への対応として、自尊心を傷つけないようすることが重要で恥をかかせないように、また、自信をなくすような言葉は避けることが必要だと話された。認知症は誰にでも起こりうる病気で、正しい知識を持って予防・対処することが必要だと強く感じた。この経験を活かして議員活動につなげてまいりたい。

認知症の人と接するときの心構え

- ① 「認知症の本人には自覚がない」というのは間違い。
- ② 認知症により人格が変わってしまったのではなく、病気によって行動や心理状態が変えられている。
- ③ 正しく接することで、今の生活をより長く続けることが可能。

行政視察受入 ようこそつがる市へ

「つがるブランド(農産物)推進事業の取組みについて」

5月9日、徳島県阿南市議会
(産業経済委員会、7人)

「つがる市立図書館について」

6月27日、岡山県笠岡市議会
(新政みらい、4人)

「つがる市立図書館の運営について」

7月9日、富山県砺波市議会
(無会派、2人)



阿南市議会の皆さん

視察では、事業実施に至った経緯や課題など担当者が説明し、活発な意見交換が行われました。

特に市立図書館は商業施設内にあり、買い物ついでに立ち寄れるほか、カフェと併設していることが注目されて、県内外からたくさんの方が視察に訪れています。